

2022' 12 DancersWeb

トップインタビュー Vol.89



吉留 諒／東京シティ・バレエ団プリンシパル

「自分だけの踊りができるダンサーになりたい」

東京シティ・バレエ団に2016年に入団して7年目を迎える吉留諒。

2022年8月には終演直後にプリンシパルに昇格するというドラマチックな展開を迎えた。

舞台上は鋭いシャープなキレで正確なパを繰り出すクールな印象を受けるが、はにかんだ笑顔を浮かべながら、一つひとつ言葉を選んで丁寧に語っていただいた。

Top Interview

吉留 諒 / 東京シティ・バレエ団プリンシパル

「自分だけの踊りができるダンサーになりたい」

2022' Dec Vol.89

Dancers Web トップインタビュー



— バレエをはじめたきっかけから教えてください。お姉さんのバレエ教室に付いていったそうですが、自分からやりたいと思ったのですか？

じつはあまり記憶にないのですが、3歳のとき気づいたら始めていました。初舞台は4歳のときで、周りの女の子たちといっしょにキューピットの衣裳を着て、舞台に出たのを覚えています。

舞台の上から、親を探して手を振っていました(笑)。

— プロになろうと思ったのはいつ頃からですか？

中学生のときにバスケット部にも入っていたんです。でも、中学1年のときに膝を怪我して、整形外科のドクターから、「オーバーワークです。身体を酷使しているので、バスケットかバレエのどちらかにしなさい」と。

それでバレエを選びました。やはりバレエが楽しかったんだと思います。バスケットを辞めたタイミングで、プロのバレエダンサーになろうと決意していました。

— 2015年に中国上海市舞蹈学校に短期研修されましたが、この学校を選んだ理由を教えてください。

当時通っていた熊本バレエ研究所と中国上海市舞踊学校とつながりがあって、5年に一度『眠れる森の美女』の全幕を上演していました。中国の学生も出演するんです。

恩師が「中国に行くからいっしょにどう？」と誘ってくださって、「一緒にレッスンを受けてみたい」と気持ちが高まりました。高校2、3年生のときだったと思います。

— 1ヶ月間の研修生活はいかがでしたか？

男性の生徒数が多いことにまず驚かされました。30人ぐらいだったと思いますが、当然綺麗なラインの人や上手い人もいて、とても刺激的でした。

学校内は英語がしゃべれる人がいて、向こうから話しかけてくれたりして、簡単なコミュニケーションでしたが、充実した時間でした。

— 研修を経験した後で、変化を感じた部分がありますか？

それからは、youtubeで色々な学校の動画を見たり、プロになるにはどうしたらいいんだろうと現実的に考え、向き合うようになりました。

— 東京シティ・バレエ団に入団された経緯は？

バレエ教室に東京シティ・バレエ団プリンシパルの黄凱(Huang Kai)さんが、ときどきゲストで来ていてHuangさんの憧れもありました。

通っていたバレエ教室の恩師が石井清子先生とつながりがあって、『くるみ割り人形』の振付をしていたことがありますが、プロになるなら、先生の作品をもっと踊りたいと。東京シティ・バレエ団に入団したのは自然な流れだったと思います。

— 「トリプル・ビル 2022」の『WIND GAMES』もとても素晴らしい舞台でした。振付のパトリック・ド・バナ氏のリハーサルはどのように進んだのでしょうか？

まず、振付に大きいバックグラウンドがあって、動きひとつ一つに意味があることを教えられました。振りをもってから、振付の意図を説明してもらくと、動きのニュアンスに深みが出ます。

幕が開いたとき、ダンサー全員がまっすぐ立っているんですけど、僕たちは桜の木で、「下に根っこが張っているようにどっしり構えてほしい」。普通に立っていると、「それは桜の木じゃない」と(笑)。日本をイメージしたそうです。

パトリックさんは、鷹匠(江戸時代、主君の鷹を世話をした職人)のことも知っていて、鷹が飛び立つ目線を表現したいという話もして、とても知識深い方でした。

— これまでで、もっとも大変だった舞台といえば？

2021年1月に出演した「ウヴェ・ショルツ・セレクションⅡ」ですね。
『Octet』を踊ったんですが、この作品は、絶対に音をきっちりハマないといけない。そして、周りとも合わせないといけない。その緊張感がありました。
「自分の身体から音が出るように」ということも常に意識していました。

— その一方で、忘れられない出演舞台はありますか？

急遽ソワレで王子を踊ることになった2022年8月の『白鳥の湖』です。
これまでで一番プレッシャーが大きい舞台でした。代役が決まって3日間しかなかったので、とにかくパートナーの佐々晴香さんが表現したい白鳥に、違和感なく自分が入り込めるように努めました。

— 3日間で全幕のすべての振付を覚えられたのでしょうか？

2021年の9月に熊本公演で『白鳥』の王子を踊っていたので、振付と全体の流れは分かっていた。
パートナーリングをゆっくり相談する時間もない中、ここはもう少しゆっくりとか、もっと切ない感情を表現したいとか、ふたりが離れていくときの手の持っていき方や止め方など、細かいニュアンスをギリギリまで詰めました。本番中も楽屋にいる時間がほとんどなく、ずっと袖に控えている状態でした。

— 幕が降りたときの思いはいかがでしたか？

無事に終わって良かった(笑)。
本番前日まではプレッシャーがあったんですが、マチネ公演が終わりソワレ公演の開演が近づくにつれ、テンションはどんどん上がってきました。本番は落ち着いて踊れたと思います。

— そして、その舞台上でプリンシパルに就任されましたね！予感はあったんですか？

いえ、全然。安達監督が舞台に出てきたとき、何しにきたんだろう？と思いました(笑)。後で聞いたら、舞台上で昇格を発表するのはバレエ団ではじめてだったそうです。

— ターニングポイントとなった舞台はありますか？

2019年に、中島先生の振付の『ロミオとジュリエット』で主演を踊らせていただいた機会があって、それまでは美しいラインをもっとも追求していたんですけど、この作品は演技も重要になってくる。演じる

ことに対して、深く考えるようになりました。

今まで踊ってきた先輩を見て真似るのではなくて、自分なりの解釈が必要。自分だったらこうしたいとか深く考えるようになって、役に向き合う時間が長くなりましたね。

— バレエダンサーになって良かったと思うときは？

うーん、日常生活ではあまり感じないですが、やはりカーテンコールのときが一番ですね。そのために頑張っているのかもしれない(笑)。

— これまでにダンサーを辞めたいと思ったことはありますか？

入団して当初は、木をもって立っているだけの役からスタートしましたが、だんだんメインキャストに挑戦させてくれる機会を与えてもらって、「どうやって乗り越えよう」という気持ちはありましたが、辞めたいと思う余裕もなかったというか(笑)、大変だったことはありますが、辛いと思ったことはないですね。

— 観客として観た中で、一番心に残っている舞台はありますか？

2015年のシルヴィ・ギエムの福岡公演です。『ボレロ』を観ました。それまで映像ではよく観ていましたが、生は違います。最初、手だけに光が当たる演出なんですけど、もうそれだけで鳥肌が立ちました。

— 周囲からかけられた中で、もっとも印象深い言葉はありますか？

熊本バレエ研究所の恩師、伴征子先生という言葉です。今でも本番前に電話をしてくださるときがありますが、「常に謙虚でいなさい。そこで踊れているのは周りの助けがあってこそ。観に来てくれるお客さんがいるからこそ。その感謝を忘れないこと。

そしてキャリアに対して、自分に自信を持つのはいいけれど、謙虚でいなさい」。この言葉はいつも心に留めています。

—ダンサーとしてこれから挑戦されたいことはありますか？

クラシックバレエはもちろんですが、コンテンポラリーもジャンルに縛られることなく、様々な振付家の色々な作品を踊りたいです。自分だけの踊りができるダンサーになりたい。そのための努力も続けていきます。

東京シティ・バレエ団／ティアラ“くるみ”の会 第36回『くるみ割り人形』

2022年12月17日(土)、18日(日)ティアラこうとう大ホール

※コクリューシュ王子役で17日:キム・セジョン、18日:吉留諒のダブルキャスト

https://www.tokyocityballet.org/schedule/schedule_000855.html

東京シティ・バレエ団 「トリプル・ビル 2023」

『Artifact II』／『L'heure bleue』／『Allegro Brillante』

2023年3月4日(土)、5日(日)ティアラこうとう大ホール

※吉留諒 出演

https://www.tokyocityballet.org/schedule/schedule_000863.html

●吉留 諒プロフィール(東京シティ・バレエ団プリンシパル)

3歳よりRKK学苑にてバレエを始め、2003年より熊本バレエ研究所にて伴征子に師事。2015年中国上海市舞蹈学校にて短期研修。熊本バレエ劇場40周年記念公演「眠れる森の美女」にて青い鳥を踊る。2016年東京シティ・バレエ団入団。2021年4月ソリスト、2022年8月プリンシパルに就任。

https://www.tokyocityballet.org/staff/staff_000195.html